
後輩と先輩と

タ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

後輩と先輩と

【著者名】

タテ

【あらすじ】

毒を吐く後輩と毒を吐かれる先輩が過ごす放課後の部室でのお話。

「先輩、先輩は地球が本当に丸いと思われますか？ちなみに私はハートの形をしていると思っています」

2人きりの放課後の部室で、後輩が急に妙なことを言い始めた。
まあそれ 자체は別に珍しくもなんとも無い。
この後輩は唐突にこのような事を言い出すのである。
そして、私はいつもそれに頭を悩ませている。
ところでも適当に答えようつものなり、

「ああどうでしょうね。まあ少なくともハートでは無いと思いますよ？」

「何のひねりもない普通の回答ありがとうございます。とても勉強になります」

といった風に毒舌をかまして來るのである。
一体何に対しても勉強になるのか、さっぱりわからない。
しかし、まあこれぐらいはほんのジャブ程度だ。
毎日後輩の毒舌を浴びている私にとっては痛くも痒くもない。
いや、ジャブといっても痛いのは痛いか。

「せ、先輩い、一体どうしたのですか！…そんな馬鹿みたいな顔して…・・・・・ああ、元からでしたか」

「はい、ストレートきました。

顔面に見事に入りました。

ついでに内容もストレートに悪口です。

「おもしろくあつませんよ？」

心の声に対しても毒を吐かれています。

「声に出します。末期ですね……残念です」

・・・『氣をつけよ。

「もうこんな時間ですか。暇な先輩と違い私は忙しいのでやります
帰ります。また明日も来ますので。では失礼します」

そう言つてさつさと帰つていく後輩。

特に何かをするでもなく、部室に来ては私に悪口を言つて帰る。
しかも、毎日。

一体何がしたいのだろうか。

「お、今日は1人か?お嬢は来てないのか?」

「今帰つたばかりですよ?」

私の数少ない友人の1人が尋ねてきて早々そんなことをいつ。
何か用でもあつたのだろうか。

「せうか。それにしてもお嬢、普段男子とほとんど関わらないのに
お前のところには毎日来てるよな~」

そうなのだ。

彼女は普段ほほまつたくと言つていいほど男と関わりあるおつしな
い。

学園でも1位2位を争う美人だが、誰かとお付き合っていふとい
う話を一切聞かない。

むしろ、彼女に振られたという話ばかりを聞く。

ちなみにいくら美人でもあんな毒舌を吐く女性が人気があるわけないと思つだろ？。

彼女が毒を吐くのは私のみである。

普段の彼女は優しく、気遣いのでき、運動神経もよく、勉強もできる完璧な女性なのだ。

何故、私だけ・・・理不尽だ。

「私のことは男と見てないのでしょう。といつより人と思われてないのでは？」

「はあ・・・お嬢もかわいそうに。まああの態度なら仕方ない氣もするが」

何故彼女がかわいそうなのだろう？
かわいそうなのは完全に私だと思つ。

「お前が特別だから、お嬢もあんな態度を取るんだよ
「特別嫌われてるってことですか？」

「はあ・・・お嬢の思いが報われるのはいつになることやら・・・

何の事を言つているのかさっぱりわからない。

「まあいいや。俺は帰るわ。お前はどうする？飯でも食つて帰らな
いか？」

「私はまだやることがありますから。また今度お願ひします

「そうか？じゃあ先に帰るわ。おつかれ～」

帰りましたか。

それにもしても後輩の思つて何でしうか。

私が特別。

悪い意味で特別ではない。

とすると後輩にとって私が良い意味で特別。
つまり・・・・・好き?

「ありえませんね。そんなことを口こだしたら後輩に殺されます」

自意識過剰すぎます。気持ち悪いです。死んでください。

一度鏡見たほうがいいです。とかなんとか言われるのが落ちてしま
う。

ふう、わっわとやることでおけで帰りましょう。

次の日の放課後。部室にて

「君は私の事が好きなんですか？」

「・・・・・・・・・・」

「な、何故、無言なんですか？い、いつもの毒舌ばかりしたんですね
か？そ、そんなに顔を赤くしてまいか、そんな・・・・・ほんとに

？」

「・・・・・・・・・・・・はい」

おわり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4292t/>

後輩と先輩と

2011年10月7日01時17分発行